

もりの博士研究所の開催

— 小学校高学年児童を対象にした森林教室 —

1 開催にいたる背景

最近の学校教育においては、環境問題が大きくクローズアップされ、身近な自然や全世界的な資源問題など様々な課題をとりあげていて、この中には当然森林を対象とした学習もあります。

こうしたなか、小学校5年生の社会科の教科書に森林・林業の記述が復活したのをうけて、林務部では平成8年度に副読本を製作配布し、学校教育への積極的な働きかけを行っており、林業改良指導員による授業も実現しています。また、森林などをフィールドとして活動しているみどりの少年団も年々数を増しています。さらに、緑化イベント等の多開催に伴い、親子や児童生徒を対象とした普及啓発活動も増加しています。

こうした状況を考えると普及指導職員はもとより、地域の林業関係者に小学校などからの森林・林業に関する指導要請が増加することも十分予想されます。

そこで、林業総合センターでは、どこにでもある里山（林業総合センター構内森林）をフィールドに小学5、6年生を対象とした野外活動指導のテストケースとして「もりの博士研究所」を開催しましたので、その概要を紹介します。

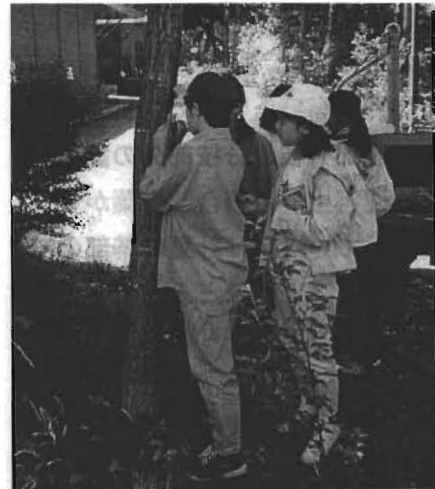
2 目標と計画

実施にあたっての主な目的は、①ふるさとの森で思い出をつくる、②森の不思議や生き物を観察する、③これらを通して身近な森に興味をもつ、としました。また、実施日時は、毎月第2土曜の10時から15時までとし、年間12回開催することとして、次のようなメニューで行いました。

通年 一定の事物の観察を続ける

- 4月 森に入ろう（ネイチャーゲームなど）
- 5月 森の不思議（自然観察ゲームなど）
- 6月 森の動物・鳥（野鳥観察、巣箱観察）
- 7月 森の植物・夏（樹皮の拓本、葉の採集）

- 8月 森の動物・虫（森、草原で昆虫採取）
- 9月 森の遊び（参加者の創作遊び）
- 10月 森の植物・秋（落ち葉集め、焼き芋）
- 11月 落ち葉の行方（土中の生き物さがし）
- 12月 木と木の実の工作（写真立て、リース）
- 1月 森の動物・冬（足跡を追いかけよう）
- 2月 森の地図づくり（年間の活動のまとめ）
- 3月 森の思い出（年間の活動発表）



7月：樹皮の拓本とり

3 参加者の募集など

募集人員は施設、スタッフの許容量から、30名程度としました。募集にあたっては、「原則として12回すべてに参加すること」という条件をつけました。まず地元小学校に募集案内したところ、5、6年生37名の申込みがあったので、当初計画していた一般公募は取り止めました。

参加者内訳

5年生			6年生			合計
男子	女子	計	男子	女子	計	
11	11	22	7	8	15	37

スタッフについては、小学校、公民館、森林のクラブなどに参加要請し、小学校から先生1名が加わってくださることとなり、当所職員3名とあわせて4名体制でスタートしました。

4 実施結果

実施した12回の内、夏休み中などを除くと8～9割の出席率を確保でき、参加者には概ね好評だったようです。このことから、思い出を作るという目的はある程度達成されたと考えられます。

ただし、内容が遊びの方向に傾いてしまったため、森の観察や森への興味の喚起が不十分のまま終わってしまったことが大きな反省点です。

また、こうした当初の目的の達成度を、参加した子供たちに直接確認する手段を用意できなかったことも反省点でした。

参加者個々にみると、皆勤者（10名）から、出席率5割の者（3名）まで様々でしたが、3月の最終回にはもりの博士研究所長（林業総合センター所長）から参加者全員に「もりの博士号」を授与しました。また、記念品として木の葉等28種が染め抜かれたバンダナを贈りました。



もりの博士号

5 プログラム例

「研究所」で実施したプログラムの中から、参加者に好評で、誰にでも指導可能で、特別な資材を要しないゲームを紹介します。

ゲーム：スタンダップ「林になろう」

- (1)目的 ①体を動かすことで緊張をほぐす
②参加者同志の触れ合いで仲間をつくる
③林業の仕事についての興味を引き出す

- (2)概要 ①対象年齢：小学生以上
②人数：10人程度以上
③時間：30分程度
④場所：平地、林内も可
⑤必要物品：特になし

(3)すすめ方

- ① 参加者を樹の種に見立て、腰をおろさせる。
- ② 指導者の合図で参加者を一齐に立ち上がらせる（種は芽を出し、成長していく）。
- ③ 皆が立ち上がったところで、森林成育の生態を解説し、立つのが遅かった者（成長が遅いもの）、密集しているものなどほぼ半数を指導者の周囲に集合させる（伐倒する）。



ゲーム：スタンダップ「林になろう」
皆が一齐に立ち上がるのは難かしい

- ④ 集合させられた者は生き残った者と背中合せに腕を組んで座り、指導者の合図で再び立ち上がる（伐倒された木は生き残った木の成長のための養分となり、木が太り、成長する）。
- ⑤ ③、④を何度か繰り返し、木に見立てた人の輪をどんどん大きくしていく。
- ⑥ 伐倒の理由は、台風、山火事、病虫害、間伐などとし、伐倒木は指導者が選木する。
- ⑦ 立派に成長した木は伐採され木材業者に引き取られて（グループ毎に次のプログラムへ進ませて）、ゲームを終わりとします。

6 まとめ

「研究所」は平成9年度も開講しており40余名の参加者が「研究」をはじめています。今年は前年の反省をいかし、森の観察、森への興味の喚起に力点を置いて企画しています。

「研究所」の詳細はいずれかの機会に紹介しますので、児童生徒等指導の参考にしてください。

（指導部 山口）